

# 令和5年度の取組状況(決算等) について

いわき市医療センター 事務局経営企画課  いわき市医療センター

# 令和5年度決算について(収益的収支)

## 決算の概況(前年比較・令和元年度比較)

- 経常収益から経常費用を差し引いた経常損益は8.6億円の黒字で、特別損益を加えた純損益は8.7億円の黒字(前年比▲13.5億円)。

科目 (単位：億円、税抜)	R5決算額 A	R4決算額 B	比較 C = A - B	R元決算額 D	比較 E = A - D
医業収益	199.2	187.0	+ 12.2	187.3	+ 11.9
医業費用	225.0	220.2	+ 4.8	227.9	▲2.9
医業損益 (医業収支比率)	▲25.8 (88.5%)	▲33.2 (84.9%)	+ 7.4 (+ 3.6P)	▲40.6 (82.2%)	+ 14.8 (+ 6.3P)
医業外収益	45.9	66.3	▲20.4	40.3	+ 5.6
医業外費用	11.3	10.9	+ 0.4	8.9	+ 2.4
看護専門学校収益	1.6	1.6	0.0	1.4	+ 0.2
看護専門学校費用	1.8	1.8	0.0	1.6	+ 0.2
経常損益 (経常収支比率)	8.6 (103.6%)	22.0 (109.5%)	▲13.4 (▲5.9P)	▲9.3 (96.1%)	+ 17.9 (+ 7.5P)
純損益	8.7	22.2	▲13.5	▲9.6	+ 18.4

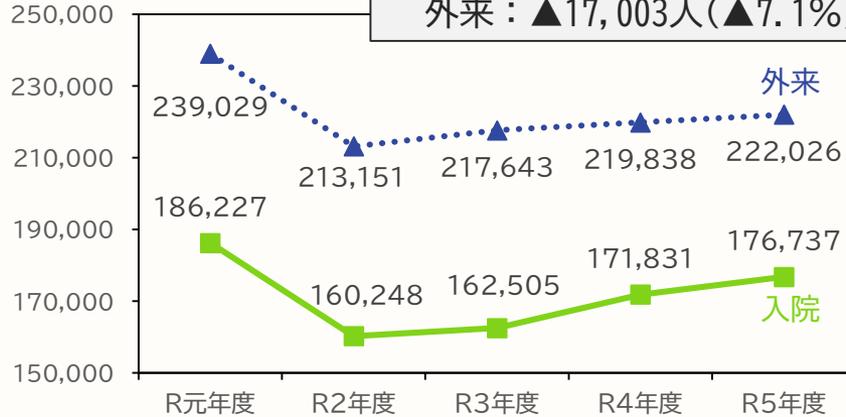
※単位未満を四捨五入しているため、合計等が合わない場合がある。

新病院建設事業に伴う資産  
減耗費の増などによるもの

# 令和5年度決算について(診療実績)

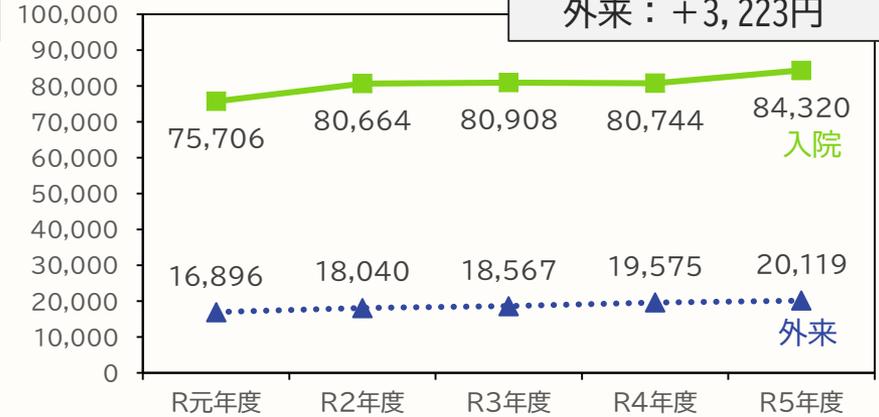
## 延患者数(人)

R5年度・R元年度比較  
 入院：▲ 9,490人(▲5.1%)  
 外来：▲17,003人(▲7.1%)



## 1人1日単価(円)

R5年度・R元年度比較  
 入院：+8,614円  
 外来：+3,223円



## 新規患者数【入院】

R5年度・R元年度比較  
 ▲243人(▲1.6%)



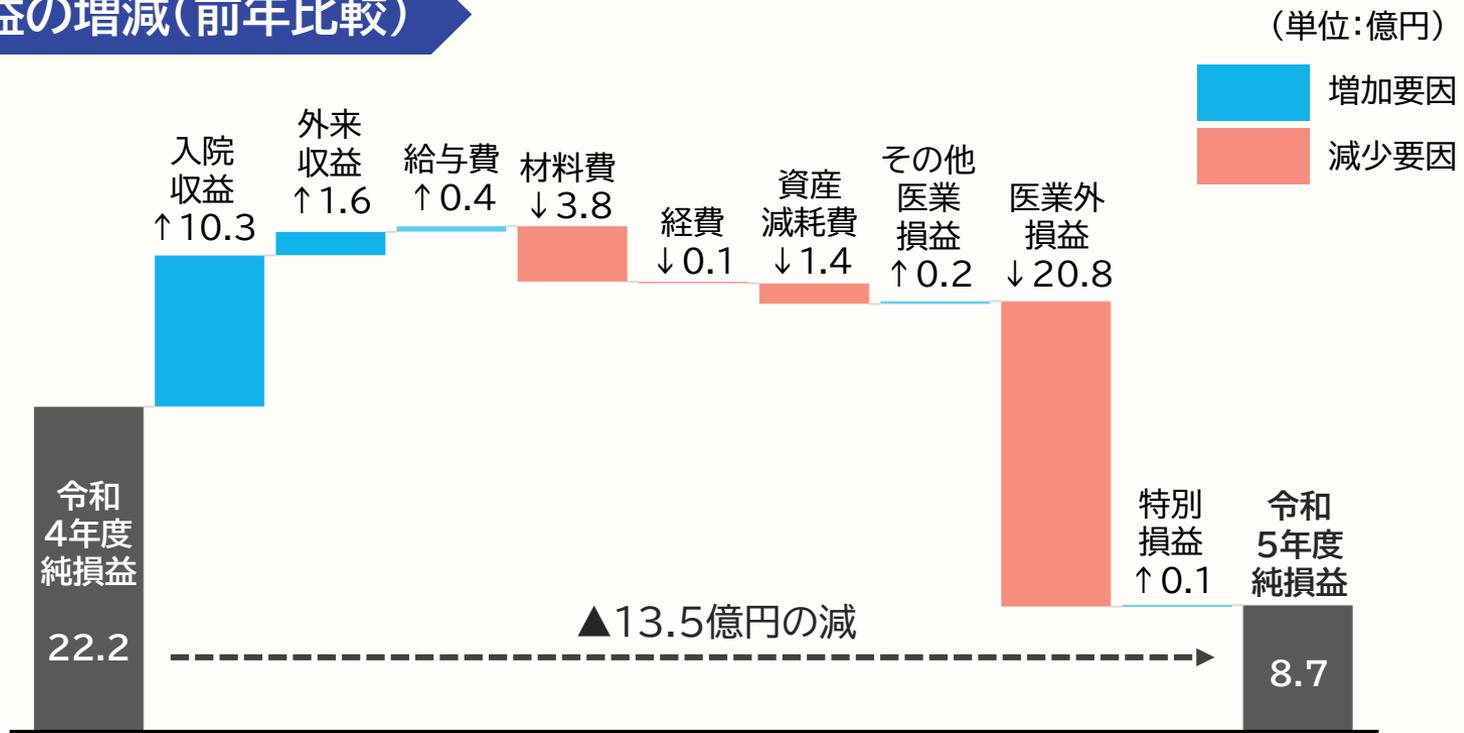
## 新規患者数【外来】

R5年度・R元年度比較  
 ▲3,287人(▲11.0%)



# 令和5年度決算について(損益分析)

## 純損益の増減(前年比較)



- 【入院収益】患者数が増加したほか、高度な手技を伴う症例の増や加算の新規取得による増
- 【外来収益】患者数が増加したほか、バイオ製剤の増、抗がん剤の適用範囲の拡大等に伴う増
- 【給与費】給与改定でベースは上がるも、普通退職の増加による職員数の減により全体では減
- 【材料費】患者数の増による手術件数の増に伴う材料費の増(循環器内科、心臓血管外科など)
- 【経費】人件費単価の上昇等による委託料の増(+0.7億)、激変緩和措置等による光熱水費の減(▲0.7億)
- 【医業外損益】補助対象病床数及び補助対象期間の減による病床確保料の減(▲19.1億)

## 決算の概況(前年比較・計画比較)

- 資本的収支に係る収支不足額は、**約11.7億円**(前年比▲0.6億円)。

【国県補助金】医療機器整備に係るコロナ関連の補助金の減  
 【他会計負担金】企業債元金償還に係る一般会計からの繰入金の減  
 【建設改良費】医療機器購入(ダビンチ等)・システム更新による増

※ 前年比較

- R4年度に予定していた病院情報システムの更新(約17億円)をR5年度に繰り越したことから、計画額比較では大幅な差が生じている。

科目 (単位：億円、税込)	R5決算額 A	R4決算額 B	比較 C = A - B	R5計画額 D(※予算額)	比較 E = A - D
資本的収入	42.2	19.2	+ 23.0	25.3	+ 16.9
うち企業債	30.4	5.7	+ 24.7	13.6	+ 16.8
資本的支出	53.8	31.4	+ 22.4	36.9	+ 16.9
うち建設改良費	32.5	8.4	+ 24.1	15.4	+ 17.1
うち企業債償還金	20.4	22.1	▲1.7	20.4	▲0.0
収支不足額	11.7	12.3	▲0.6	12.6	▲0.9

※単位未満を四捨五入しているため、合計等が合わない場合がある。

## 主な評価指標(前年比較)

- 患者数・医業収益の増を背景に、多くの指標は前年比で改善している。

【 経常収支比率 】 病床確保料の減により、前年比で減

【 職員給与費対医業収益比率 】 改定により給与増となるも、医業収益の増により改善

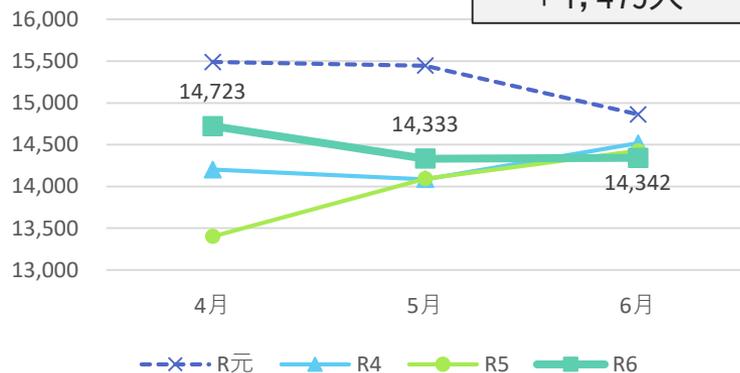
【 材料費対医業収益比率 】 高額薬品・材料を伴う症例が増となるも、医業収益の増により横ばい

区分	R3年度 実績値	R4年度 実績値	R5年度		R5-R4 実績比較	R6年度 計画値
			計画値	実績値		
救急車受入件数	3,404件	4,174件	3,900件程度	4,284件	+110件	4,300件程度
紹介件数	18,843件	19,379件	20,200件程度	20,256件	+877件	20,500件程度
逆紹介件数	9,513件	10,193件	10,100件程度	11,171件	+978件	10,400件程度
新規入院患者数	13,174人	13,837人	14,500人程度	14,787人	+950人	14,200人程度
経常収支比率	110.2%	109.5%	100%以上	103.6%	▲5.9P	100%程度
医業収支比率	83.5%	84.9%	84%程度	88.5%	+3.6P	85%程度
職員給与費対医収比率	53.3%	51.5%	53%程度	48.2%	▲3.3P	51%程度
材料費対医収比率	30.7%	31.3%	30%程度	31.3%	▲0.0P	31%程度

# (参考)第一四半期の比較【入院】

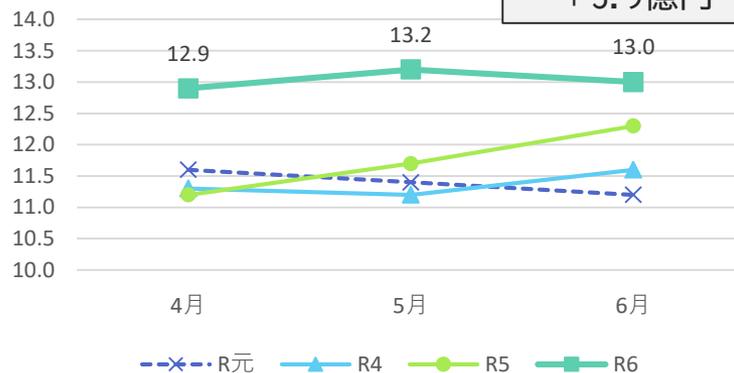
## 入院延患者数(人)

R5年度・R6年度比較  
+1,475人



## 入院収益(億円)

R5年度・R6年度比較  
+3.9億円



## 入院1人1日単価(円)



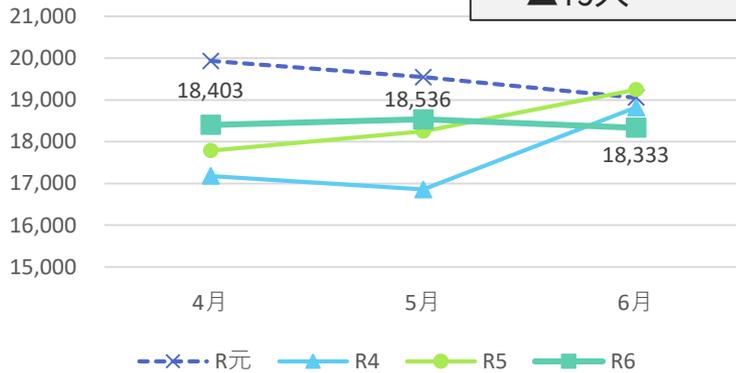
• 疾患構成の変化や診療報酬改定への適切な対応により、前年同時期よりも症例当たり単価が大幅に上昇。  
⇒ 収益の確保に繋がっている。

- 前年同時期比で増えた手術・疾患
  - 経カテーテル心筋焼灼術(循環器内科)
  - 急性白血病、非ホジキンリンパ腫(血液内科)

# (参考)第一四半期の比較【外来】

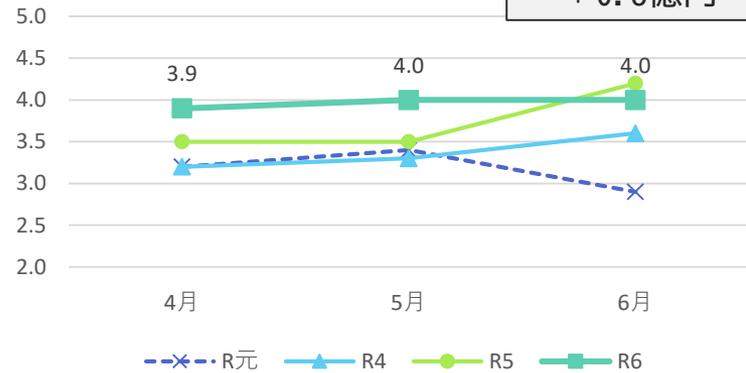
## 外来延患者数(人)

R5年度・R6年度比較  
▲13人

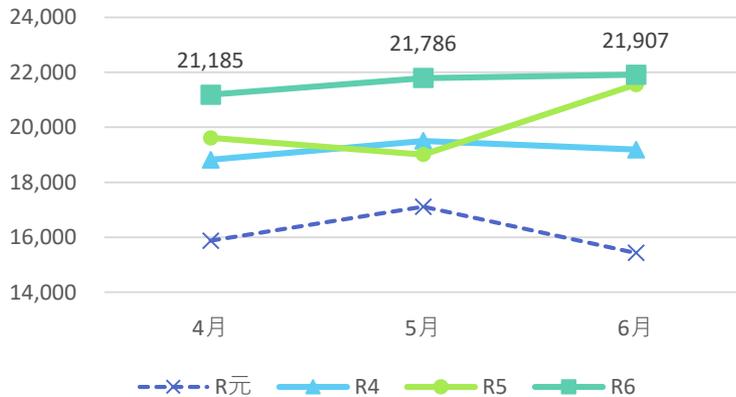


## 外来収益(億円)

R5年度・R6年度比較  
+0.8億円



## 外来1人1日単価(円)



- 抗がん剤・免疫チェックポイント阻害薬の使用が増えたため、単価が大幅な増となっている。
- 高額な薬品使用による収益増であり、材料費の動向をこれまで以上に注視していく必要がある。

## ダビンチ手術の実績推移

(単位:件)

区分	R5.7~R6.3	R6.4~R6.6	合計
外科	29	12	41
呼吸器外科	11	6	17
産婦人科	34	24	58
泌尿器科	6	6	12
合計	80	48	128

### 【主な内訳】

- 外科 …直腸がん、上行結腸がん
- 呼吸器外科 …肺がん
- 産婦人科 …子宮筋腫、子宮体がん
- 泌尿器科 …前立腺がん

- 導入から10か月足らずの令和6年5月に累計症例数が100件に達するなど、着実に実績を重ねている。



## ドクターカー出動実績(R4.10月運用開始)

(単位:件)

区分	R4.10~R5.3	R5.4~R6.3	R6.4~R6.6	合計
出動件数	49	64	7	120

- 事案としては、交通事故現場への出動や、疾病により心肺停止状態となった患者の下へ出動するケースが多い。

### 【今後の課題】

- 運用にあたる医師・看護師・救急救命士の確保  
(※救急救命士は、現在は市消防本部からの出向で対応)



## 令和6年能登半島地震に係る主な支援活動

### (R6.1.6-10 輪島市への派遣)

- 当センタースタッフ5人を派遣。(DMAT3次隊)
- 自衛隊輸送ヘリ(CH-47)による入院患者の広域搬送(輪島市から小松空港、福井空港)に従事。

### (R6.1.22-28 珠洲市への派遣)

- 当センタースタッフ4人を派遣。(DMAT6次隊)
- 高齢者施設等の巡回や全戸調査による医療ニーズの吸い上げや患者搬送について活動拠点での指揮及び調整を実施。

- 上記のほか、日本医師会や日本病院薬剤師会からの派遣要請にも対応。



### **【DMAT(Disaster Medical Assistance Team)とは?】**

「災害派遣医療チーム」のことで、医師・看護師・業務調整員から構成される。普段は院内で通常業務に従事するが、発災時には要請に基づき、機動的に現地へ赴く。基本的には発災直後の急性期に活動するとされているが、今回のように中期スパンで活動することもある。

## 中学生向け手術体験セミナーの開催

- 令和6年2月、市内の中学1・2年生を対象とした「外科手術体験セミナー」を開催。応募いただいた中から12名の方を抽選し、診療現場を案内した。
- 高度医療の提供体制確保と併せて、こうした地域貢献活動にも注力していく。

### 【セミナーのプログラム】

- ① 手術室の見学(外科医師、看護師等による案内)
- ② 手術支援ロボットの操作体験
- ③ 電気メス体験
- ④ 腹腔鏡手術のトレーニング体験
  - 特に、③④については外科医師がマンツーマンで指導するなど手厚い体制が特徴

